

S.E.N.S 養成カリキュラム シラバス (2018 年度版)

A. 概 論

◇ 特別支援教育概論Ⅰ：発達障害の理解（3時間：1P）

【 概 要 】

障害の捉え方についての基本的理念の変遷と動向を明らかにする。LD、ADHD（注意欠如多動性障害）、ASD（自閉症スペクトラム障害）等の「発達障害」について、その用語の歴史的変遷と動向、定義について明らかにする。発達障害の中核となる LD、ADHD、ASD 等にみられるつまづきや困難について述べ、軽度の知的障害やスローラーナー、ギフテッドとの関連性にもふれる。また、教育領域と医学領域では、これら名称について相違があること、その重複性などについても説明する。これらの児童生徒に対してどのような支援が必要かなど、その状態像を中心に、特別支援教育の対象をめぐる基本的事項について解説する。

【 キーワード 】

発達障害、LD、ADHD、ASD、知的障害（精神遅滞）、スローラーナー、ギフテッド、ICF

【 到達目標と評価 】

- ①障害の捉え方についての基本的理念の変遷と動向について説明できる。
- ②発達障害を概観し、LD、ADHD、ASD 等の定義と状態像、近接領域との関係について説明できる。
- ③さまざまな「発達障害」等から生じる二次的な問題を具体的に挙げるができる。
- ④さまざまな発達障害の学習・行動面への支援の基本方針について述べるができる。

◇ 特別支援教育概論Ⅱ：特別支援教育のシステム（3時間：1P）

【 概 要 】

わが国における LD、ADHD、ASD 等の「発達障害」への支援の取り組みを歴史的に概観しながら、その過程で明確になった特別支援教育の概念、学校における支援体制、特別支援教育コーディネーターの役割、個別の指導計画と個別の教育支援計画、特別支援教育支援員など、主に学校教育における支援の在り方とシステム等について述べる。関連の報告類や法令等についても触れる。

【 キーワード 】

発達障害者支援法・改正発達障害者支援法、インクルーシブ教育、校内委員会、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員、個別の指導計画、個別の教育支援計画、通常の学級、特別支援学級、通級による指導、特別支援学校、センター的役割、専門家チーム、巡回相談、特別支援連携協議会、発達障害者支援センター

【 到達目標と評価 】

- ①学校教育の現状と課題を中心に、特殊教育から特別支援教育への歴史的転換について述べるができる。
- ②特別支援教育の意義とシステム、各種の法的な整備と動向について説明できる。
- ③学校における支援システム、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員の役割などについて説明できる。
- ④学校におけるさまざまな発達障害への支援体制を整備していく上で重要な課題を挙げるができる。

◇ 発達障害と医療（6時間：2P）

【 概要 】

発達障害の生物学的背景および、発達障害と関連する医学領域における知識・知見の基本について説明する。脳の構造と機能、遺伝、発達障害の相互関係、合併症・併存症などの他、発達障害に関する最近の医学的研究の動向も紹介する。さらに、医療と教育の連携の在り方についても述べる。

【 キーワード 】

脳の機能、発達障害、DSM、ICD、知的障害（精神遅滞）、自閉症スペクトラム障害/広汎性発達障害(ASD/PDD)、LD、コミュニケーション障害、発達性協調運動障害、ADHD、反抗挑戦性障害、行為障害、二次障害、児童虐待、薬物療法

【 到達目標と評価 】

- ① 大脳皮質の主要な構造と機能とその異常による症状を述べることができる。
- ② 発達障害の遺伝とその他の発症要因について述べるができる。
- ③ LD、ADHD、ASD について医学的立場からの基本的臨床を述べるができる。
- ④ 発達障害における主な合併症・併存症と予後について述べるができる。
- ⑤ 発達障害に対する薬物療法の適応と効果について述べるができる。
- ⑥ 発達障害におけるさまざまな二次障害とその背景要因について述べるができる。
- ⑦ 教育と医療の連携の必要性と連携を促進する方法を述べるができる。

B. アセスメント

◇ 総論：アセスメント（3時間：1P）

【 概要 】

LD、ADHD、ASD 等の「発達障害」について、乳幼児期から青年・成人期に至る困難領域の年齢的な変化と発達課題の概要をおさえた上で、その実態を捉えるためのアセスメントの意義と目的について述べる。ASD については心の理論についても説明する。アセスメントの倫理面についても述べる。

実態把握の方法として、行動観察、心理アセスメント、発達アセスメント、学力アセスメント、行動アセスメント、社会性のアセスメントなどについて述べる。

各領域のアセスメントから得られた情報を総合して、どのように指導プログラムへと結びつけていくかについて、SKAIP に関する導入的説明を含めて述べる。

【 キーワード 】

発達課題、生育歴、行動観察、発達アセスメント、心理（認知・記憶）アセスメント、学力アセスメント、SKAIP、アセスメントにおける倫理、個人情報保護

【 到達目標と評価 】

- ① 子どもの一般的な発達過程についてその概略を述べるができる。
- ② さまざまな発達障害のある子供の発達の变化・発達課題について述べるができる。
- ③ アセスメントの意義と目的、アセスメントの領域、内容、方法について述べるができる。
- ④ アセスメントと指導の関係について説明することができる。
- ⑤ アセスメントをする際の留意点や倫理面について述べるができる。

◇ 心理検査法 I : WISC-IV (6時間 : 2P)

【 概 要 】

LD 等の認知特性を把握するための代表的な基本検査である WISC-IV の理論と解釈について述べる。検査の目的と内容、主要な指標を中心に下位検査が何を測定しようとしているか、検査結果の見方（検査中の行動観察を含む）等について説明する。採点や結果の整理での所見にも触れながら、検査結果の解釈と所見の読み取り方、結果の保護者への伝え方、他の検査結果も踏まえて結果を指導プログラムの作成にどう役立てるか等についての説明を行う。

【 キーワード 】

ウェクスラー式知能検査 (WISC-IV)、CHC 理論、合成得点、全検査 IQ (FSIQ)、言語理解指標 (VCI)、知覚推理指標 (PRI)、ワーキングメモリー指標 (WMI)、処理速度指標 (PSI)、プロセス得点、解釈、所見、個人内差

【 到達目標と評価 】

- ① WISC-IV の内容と特徴を理解し、検査から得られる結果の意義を説明することができる。
- ② 各種合成得点、個人内差などの用語を説明することができる。
- ③ 各合成得点（指標得点）や下位検査がどのような能力を測定しているかについて、基本的な説明をすることができる。
- ④ 検査結果に表れた個人の認知特性を読み取る方法について説明することができる。
- ⑤ 所見の書き方、伝え方、結果を活用する方法について説明することができる。
- ⑥ 検査の限界や他の検査結果や情報との付き合い方について説明することができる。
- ⑦ WISC-IV から WISC-V への移行についても説明することができる。

◇ 心理検査法 II : KABC-II・DN-CAS (6時間 : 2P)

【 概 要 】

LD 等の認知特性のアセスメントで WISC-IV 等の知能検査を補完する認知検査として用いられる KABC-II や DN-CAS の概要を論じる。検査の目的と内容、各下位検査の内容、下位検査が何を測定しようとしているか、について説明する。なお、KABC-II については認知処理過程の尺度を中心とし、習得尺度は学力のアセスメントで扱う。

【 キーワード 】

KABC-II、CHC 理論、認知尺度、習得尺度、DN-CAS、PASS 理論、プランニング、注意、継次処理、同時処理

【 到達目標と評価 】

- ① KABC-II と DN-CAS の内容と特徴を基本的に理解し、検査を行うことの意義を説明することができる。
- ② プランニング、注意、継次処理、同時処理、認知処理過程、習得度等の用語を説明することができる。
- ③ 各下位検査がどのような能力を測定しているかについて基本的な説明をすることができる。

◇ 学力のアセスメント（3時間：1P）

【 概 要 】

アセスメントのひとつの柱である学力の実態把握の方法についてその概要を説明する。LD 等の判断だけでなく、心理アセスメントによる認知特性から、教育支援のプログラムを立案するためにも必要な学力の実態を明らかにする。SKAIP や LDI-R、KABC-II の習得尺度、MIM 等についても説明を行う。

【 キーワード 】

学力のつまずき、学業不振、読み書き、算数・数学、学力検査、SKAIP、LDI-R、KABC-II（習得尺度）、MIM

【 到達目標と評価 】

- ①学力のつまずきの特徴について述べるができる。
- ②学校でできるアセスメント（チェックリスト、SKAIP 等）について述べるができる。
- ③SKAIP を中心に、KABC-II の習得尺度による学力アセスメント、MIM 等について基本的な説明をすることができる。
- ④学力のアセスメントを行う際の留意点について述べるができる。

◇ アセスメントの総合的解釈（6時間：2P）

【 概 要 】

各種検査結果と行動観察の結果、さらには学校での様子や保護者からの情報などを総合して、子どものつまずきを理解し、ニーズを把握する具体的手続きについて述べる。また、発達上のつまずきだけでなく、子どもの得意なことや好みの活動なども考え合わせて、個別の指導計画を作成していくプロセスについても説明する。事例を通して、複数の検査結果、行動観察記録、面談記録などを総合的に解釈し、指導仮説に基づいて具体的指導計画をたてることの意義を説明する。あわせてアセスメントにあたって保護者・本人への説明と同意などの基本的倫理面についても述べる。

【 キーワード 】

心理検査（知能検査・認知検査）、学力検査（SKAIP を含む）、行動観察、保護者との面接、総合的解釈、個別の指導計画、事例による検討、アセスメントにおける倫理

【 到達目標と評価 】

- ①複数の検査結果を総合的に解釈する方法について述べるができる。
- ②アセスメント結果を個別の指導計画の作成に結びつける具体的な方法を説明することができる。
- ③検査結果と観察記録、保護者からの情報などを総合的に解釈する際の配慮点と倫理について述べるができる。
- ④アセスメントの結果を保護者や担任教師へわかりやすく伝えることができる。
- ⑤アセスメントに対する保護者・本人への説明と同意など倫理的側面について説明することができる。

C. 指 導

◇ 総論：個に応じた支援（3時間：1P）

【 概 要 】

特別支援教育の根幹となる「個に応じた支援」について、子どもをつまづきへの気づき・アセスメントから個別の指導計画の作成・実施までの支援の全体像について説明する。

通常の学級をはじめとする教育支援の場での、個の特性に応じた基礎的環境整備と合理的配慮のあり方について述べる。障害への合理的配慮では、近年著しく進展している ICT 活用についても説明する。個別の教育支援計画を核とした各年齢段階で重要な支援の領域・内容、就学・進学・就労に際しての移行支援についても述べる。

【 キーワード 】

個の教育ニーズ、発達課題、実態把握、個別の指導計画、基礎的環境整備、合理的配慮、ICT 活用、個別の教育支援計画、移行支援

【 到達目標と評価 】

- ①個に応じた支援の全体像を説明することができる。
- ②さまざまな発達障害のある子どもたちに必要な支援の領域と内容を挙げるができる。
- ③個別の指導計画の立案の基本的ポイントと、計画を実施する上での基礎的環境整備や合理的配慮（ICT 活用を含む）の具体的内容について説明できる。
- ④長期的な観点に立った個別の教育支援計画の立案の基本的ポイントが説明できる。
- ⑤移行支援の基本的なポイントについて説明できる。

◇ 「聞く・話す」の指導（6時間：2P）

【 概 要 】

言語・コミュニケーションの発達とその困難を理解するために必要な音声言語学等の基本的知識を概説する。LD、ADHD、ASD 等の「発達障害」にみられる「聞く・話す」の困難の具体像について述べる。以上をもとに、学校場面や日常生活場面における「聞く・話す」の問題の把握と分析の方法、支援の観点と方法、支援の実際について、事例を挙げながら具体的に説明する。

【 キーワード 】

言語発達、音韻、意味、統語、語用、コミュニケーションの発達、コミュニケーション障害、聴覚認知、聴覚的把持力、音韻認識、言語表現、会話

【 到達目標と評価 】

- ①言語・コミュニケーションの発達とその困難について基本的な説明をすることができる。
- ②「聞く・話す」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ③「聞く・話す」のつまづきの具体像とその原因について説明することができる。
- ④つまづきの特性に応じた指導プログラムの必要性がわかり、つまづきの原因と指導の方法・内容を関連付けて述べるができる。

◇「読む・書く」の指導（6時間：2P）

【概要】

教科学習の基礎となる読み書きの困難について、日本語の文字体系における、その発生のメカニズムに関わる認知特性について系統的に概説する。LD、ADHD、ASD等の「発達障害」にみられる「読む・書く」の困難の具体像について述べる。読み書き能力のアセスメント方法、かな文字、漢字、英語の読みと書きのつまずきの原因と、原因に応じた支援方策、指導教材と支援の実際について、事例を挙げながら具体的に説明する。

【キーワード】

ディスレクシア（読字障害）、英語、かな、漢字、音韻認識、音文字変換スピード、ワーキングメモリー、視知覚認知、読解、作文、読み書き検査法、ピジョントレーニング

【到達目標と評価】

- ①ディスレクシアの基本的状態像について説明することができる。
- ②日本語の文字体系の特性とわが国の読み書き障害の特徴を述べるができる。
- ③「読む・書く」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ④「読む・書く」のつまずきの具体像とその原因について説明することができる。
- ⑤つまずきの原因と指導の方法・内容を関連づけて述べるができる。

◇「計算する・推論する」の指導（3時間：1P）

【概要】

算数・数学の学習の基礎となる「計算する・推論する」の困難について、数概念、数処理、ワーキングメモリーなど算数・数学の習得に関わる認知特性の関連について概説する。LD、ADHD、ASD等の「発達障害」にみられる「計算する・推論する」の困難の具体像について述べる。「計算する・推論する」のアセスメント方法、つまずきの原因、原因に応じた支援方法、指導教材と支援の実際について、事例をあげながら具体的に説明する。

【キーワード】

数概念、基数性、序数性、数処理、ワーキングメモリー、注意、プランニング、イメージ化、計算、暗算、筆算、文章題、図式化

【到達目標と評価】

- ①「計算する」の基礎となる数量概念、数処理の発達とその困難について基本的な説明ができる。
- ②「推論する」の基礎となる文章理解力、立式等の困難について基本的な説明ができる。
- ③「計算する・推論する」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ④「計算する・推論する」のつまずきの具体像とその原因について説明することができる。
- ⑤つまずきの特性に応じた指導プログラムの必要性がわかり、つまずきの原因と指導の方法・内容を関連づけて述べるができる。

◇ ソーシャルスキルの指導（6時間：2P）

【 概 要 】

ソーシャルスキル指導の意義と目的について説明する。LD、ADHD、ASD等の「発達障害」にみられるソーシャルスキルの課題と困難について発達の観点から述べる。ソーシャルスキルのアセスメント方法についても説明する。

学校現場を中心にソーシャルスキル指導の目標・内容・方法を紹介しながら、具体的な活動を含めた指導の実際について説明する。

【 キーワード 】

ソーシャルスキル、ライフスキル、自尊感情・自己肯定感（セルフエスティーム）、自己理解、他者理解、情緒的適応、社会的適応、場の構成、ロールプレイング

【 到達目標と評価 】

- ①発達障害のある子どもへのソーシャルスキル指導の意義を述べることができる。
- ②ソーシャルスキルのアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ③ソーシャルスキル指導の基本的な原理と指導法について説明することができる。
- ④家庭との連携の必要性や地域リソースの活用の仕方を述べるができる。

◇ 行動面の指導（6時間：2P）

【 概 要 】

教室で子どもが示す行動上のつまずき（授業への参加困難、多動、衝動性、パニック、ルール理解や友人関係の困難など）について、その理解と支援に必要な基礎知識を概説する。行動面のアセスメントについても説明する。

応用行動分析の考え方に基づいた実態把握のための行動観察、行動の変化をとらえるための記録方法、教室場面で役立つ指導技法の原理について、実際の支援事例を挙げながら説明する。また、応用行動分析とも併用可能な他の指導方法についても紹介する。学校における支援体制や学校と家庭の連携、チームアプローチのあり方についても述べる。

【 キーワード 】

応用行動分析、行動観察、環境アセスメント、機能的アセスメント、行動変容の方法、校内支援体制、保護者との連携、チームアプローチ

【 到達目標と評価 】

- ①発達障害にみられる行動上のつまずきの具体像とその原因について述べるができる。
- ②行動についてのアセスメント、観察方法と記録方法について説明することができる。
- ③応用行動分析の基本的な原理と概念について説明することができる。
- ④行動上のつまずきに対処するためのさまざまな指導技法について説明することができる。
- ⑤教室場面における環境の設定や子どもへの接し方について説明できる。
- ⑥学校における支援体制や学校と家庭の連携、チームアプローチのあり方について述べることができる。

◇感覚と運動の指導（3時間：1P）

【概要】

LD、ADHD、ASD等の「発達障害」によく見られる感覚運動機能のつまずきについて、感覚の過敏、視機能の問題、運動の不器用さ（発達性協調運動障害）などを中心に、その観察の視点と方法、つまずきの要因の分析、学習や日常生活への影響について述べる。また、学校で実施可能な活動の具体例を紹介しながら、感覚運動機能のつまずきの指導の実際について述べる

【キーワード】

感覚運動機能、感覚過敏、視機能、注視、眼球運動、視覚認知、目と手の協応、ラテラルィー（利き側）、不器用さ（発達性協調運動障害）、低緊張、姿勢保持、運動企画、補助具

【到達目標と評価】

- ①発達障害に見られる感覚運動機能のつまずきの状態像について説明することができる。
- ②視機能のつまずきが学習や日常生活に及ぼす影響について説明することができる。
- ③姿勢保持の困難や運動の不器用さが学習や日常生活に及ぼす影響について説明することができる。
- ④感覚運動機能のつまずきのアセスメント方法の基本について述べることができる。
- ⑤感覚運動機能のつまずきの指導方法を具体的に挙げるができる。

◇社会的自立・就労の指導（3時間：1P）

【概要】

LD、ADHD、ASD等の「発達障害」の青年・成人期の状態像にふれながら、社会的自立と就労の現状や課題について説明する。わが国の障害者就労支援制度や障害者基本法等について説明し、社会的自立と就労支援における課題と具体的な支援内容、今後の取り組みの必要性と方向性について述べる。また、社会的自立・就労に向けた具体的な準備が必要になる高校・大学期の支援の方針・内容について説明する。

【キーワード】

個別の教育支援計画、社会的自立、就労支援システム、障害者手帳、発達障害者支援法・改正発達障害者支援法、ジョブコーチ、職業リハビリテーション、ニート、高校・大学期の支援

【到達目標と評価】

- ①発達障害の青年・成人期の状態像について述べるができる。
- ②自立と社会参加の観点に立った長期的支援の必要性を述べるができる。
- ③わが国の障害者就労支援制度の概略を述べるができる。
- ④発達障害のある人の社会的自立・就労支援の現状と課題について述べるができる。
- ⑤発達障害のある人の支援における教育と福祉、労働の連携の必要性を説明することができる。

◇ 個別の指導計画の作成と活用（6時間：2P）

【概要】

LD、ADHD、ASD等の「発達障害」のある児童生徒の個別の指導計画とはどのようなものか、その意義と目的、領域と内容について説明する。また、長期目標、短期目標、教育の形態、支援の内容、評価など、個別の指導計画を構成する内容を示す。記録やアセスメントから得られたさまざまな情報からどのように個別の指導計画を作成するかについて説明する。

子どもの事例を通じて、個別の指導計画作成の実際と学校におけるその実施方法について、基礎的環境整備や合理的配慮にもふれながら述べる。さらに、個別の教育支援計画との関連についてもふれる。

【キーワード】

個別の指導計画、長期目標、短期目標、指導の手立て、評価、PDCA、基礎的環境整備、合理的配慮、個別の教育支援計画

【到達目標と評価】

- ①発達障害のある児童生徒の教育支援における個別の指導計画の意義と目的、領域と内容について説明することができる。
- ②個別の指導計画の構成内容を説明することができる。
- ③学校における個別の指導計画の作成と活用の方法について述べることができる。
- ④個別の指導計画の実施に必要な基礎的環境整備や合理的配慮を具体的に述べることができる。
- ⑤個別の教育支援計画の策定についても述べることができる。

D. 特別支援教育士の役割

◇ S.E.N.Sの役割と倫理（3時間：1P）

【概要】

LD、ADHD、ASD等の「発達障害」の特別支援教育の専門資格であるS.E.N.Sの役割について説明する。S.E.N.Sが果たすべき役割には、子どもの問題への気づきと支援、保護者や学級担任への支援、校内・地域での特別支援教育のコーディネート等が挙げられるが、これらの役割には、専門的な知識・技能と高い倫理性が求められるので、S.E.N.Sの具体的な役割を倫理の問題と関連付けながら述べる。

【キーワード】

S.E.N.S、カウンセリング、コンサルテーション、倫理、インフォームドコンセント、説明責任、守秘義務

【到達目標と評価】

- ①S.E.N.Sのさまざまな役割、その内容と意義について説明することができる。
- ②特別な支援を必要としている子どもの存在に「気づく」ための視点について述べることができる。
- ③教師に対する配慮・支援の方法と内容を具体的に説明することができる。
- ④専門資格としての職業倫理について述べることができる。

◇ 学校・園における支援体制Ⅰ：通常の学級における支援（3時間：1P）

【概要】

通常の学級に在籍する児童生徒およびその学級担任への支援を実施するにあたって、S.E.N.Sが知っておくべき内容について説明する。

幼稚園、小・中学校、高等学校の通常の学級で、LD、ADHD、ASD等の「発達障害」の子どもの問題への気づき、実態把握、集団の中での個の特性への配慮等について説明する。学級経営、授業における配慮や工夫について基本的な考え方を示し、具体的な実践例を紹介する。発達障害のある子どもとその保護者、周りの子どもたちとその保護者に対する具体的対応について述べる。

【キーワード】

実態把握、特性理解、基礎的環境整備、特性への合理的配慮、個別の指導計画、授業の工夫、教材づくり、学級経営、校内委員会、保護者との連携

【到達目標と評価】

- ①発達障害のある子どもが在籍する通常の学級における学級経営上の基本的考えと学級の基礎的環境整備、授業での合理的配慮や工夫について具体的に説明することができる。
- ②学校・園で子どもの問題を共通理解することの必要性和ポイントについて説明することができる。

◇ 学校・園における支援体制Ⅱ：コーディネーターの役割とリソースの活用（3時間：1P）

【概要】

S.E.N.Sとして知っておくべき、特別支援教育コーディネーターの役割、校内委員会の設置と運営、特別支援教育支援員等の活用と活用上の留意点、通常の学級と通級指導教室との連携等について説明する。さらに、専門家チームや巡回相談の活用と配慮のポイント、特別支援学校のセンター的機能の活用やその他の地域リソースとの連携、特別支援連携協議会などについても述べる。

【キーワード】

校内委員会、専門家チーム、巡回相談、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員、通級指導教室、特別支援学校、地域リソース、特別支援連携協議会

【到達目標と評価】

- ①特別支援教育コーディネーターの役割がわかり、学校・園における支援体制作りと既存リソースの利用方法を具体的に述べることができる。
- ②通級指導教室やその他のリソースの役割と連携について説明することができる。
- ③特別支援教育支援員等の役割がわかり、その活用の仕方と活用上の留意点がわかる。
- ④特別支援学校のセンター的機能について説明することができる。
- ⑤児童生徒、学級担任、保護者からのさまざまな質問や問題提起に対して、課題の整理の仕方や解決のための必要な手立てについて述べるができる。

◇ 保護者とのかかわりと連携（3時間：1P）

【概要】

子どもの支援に不可欠な保護者とのかかわりや協力の仕方について述べる。保護者への対応の在り方、保護者の心理状況や置かれている状況の把握・理解、保護者と学校・教師の関係の調整など、保護者への支援の実際について述べる。また学校と家庭での役割分担、保護者の参画など保護者との協力の方法、在り方について述べる。さらに、保護者への支援における S.E.N.S の役割と倫理についても述べる。

【キーワード】

障害理解、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、倫理、S.E.N.S、保護者への支援、就学相談、進路相談、生活指導

【到達目標と評価】

- ①保護者支援に必要な基本的な態度や留意点について述べることができる。
- ②LD、ADHD、ASD 等の「発達障害」のある子どもをもつ保護者の心理状況や、家庭に生じる問題を理解し、その支援の方法を具体的に挙げて説明することができる。
- ③保護者と担任教師・学校や、他の保護者との間に生じやすい問題がわかり、S.E.N.S として、どのような関係調整や介入が必要かを説明することができる。
- ④児童生徒への配慮・支援について、保護者との協力、役割分担する方法や留意点について述べることができる。
- ⑤保護者への支援、保護者との協力について、S.E.N.S の役割を述べることができる。

E. 実 習

◇ 指導実習（6P）

【概要】

指導実習の目的は、実際の事例の検討を通じて、LD、ADHD、ASD 等の「発達障害」のアセスメントの解釈から指導に至る過程を経験し、その実践的な力を高めることにある。受講者は、実習で提示される子どもの事例について、学習や行動のつまずきの原因と子どもの発達特性を分析し、教育的支援が必要な領域とその具体的内容について検討する。中でも実習では、学習面の支援を重視する。

以上の検討をもとに、個別の指導計画を作成し、通常の学級をはじめとするさまざまな場面で計画をどう実現していくかを考える。指導の計画と展開については、①通常の学級における配慮・支援の実際、②個別支援の場での指導内容と方法、等を中心に、講師と受講者によるディスカッションを含めながら、実践的に学んでいく。

【キーワード】

事例検討、アセスメントの解釈、障害特性、学習の支援、個別の指導計画、指導教材

【到達目標と評価】

- ①提供された事例情報から、子どもの発達特性とつまずきの原因を読み取り、支援が必要な領域と支援内容を具体的に挙げるができる。
- ②子どもの学習や行動のつまずきと、それに対応する指導の方法・内容・教材の関係を具体的に説明することができる。
- ③それに基づいて、事例に関する個別の指導計画を作成することができる。